

◆特集 病院図書館のニューウェイブ◆

# 情報提供手段としてのホームページの活用

—東邦大学医学メディアセンターを事例として—

牛澤 典子

## I. はじめに

インターネットの普及と共に、従来紙で存在した資料は電子資料に移行が進んでいます。電子教科書が着々と増えていますし、PubMedに収録されている4,500誌のうち、かなりのタイトルが電子ジャーナルとなっています。またそれらを探すための目録やデータベースは、オンラインでない方が珍しいかもしれません。そしてインターネット上にしか存在しない有益な資料・ツールもたくさんあります。

このような状況の中で情報と利用者を結びつけるには、ホームページが有効なしかけと考え、当センターでは1995年から積極的に運用しています。これを事例として報告させていただきます。

## II. 東邦大学ネットワークの概要

1925年創立の東邦大学は、東京都大田区に医学科、看護学科、大森病院を、目黒区に大橋病院を、そして千葉県佐倉市に佐倉病院、看護専門学校を持っています。また、千葉県習志野市に理学部、薬学部があり、この他にそれぞれ2つの中学校、高等学校があります。

これらのキャンパスはすべて教育・研究系ネットワークで結ばれており、医学、習志野の各メディアセンター、病院図書室のホームページはこのネットワーク上で公開されています。診

療系ネットワークはこれとは別に存在します。

## III. 医学メディアセンターホームページの概要

ホームページは1995年から公開を始め、現在は図1のトップページを使っています。このページは2回リニューアルして2000年から使っているものです(図1)。

当センターは情報管理部門(資料の受入・管理)、情報サービス部門(閲覧・相互貸借)、調査研究支援部門(利用支援・利用者教育)の3部門体制をとっており、ホームページの作成・管理は調査研究支援部門の2名が担当しています。



図1 医学メディアセンターホームページ

<http://www.mmc.toho-u.ac.jp/nmc/>

ホームページの基本的な考え方はポータルサイトです。平成12年度から14年度の3年間、当センターの組織目標は“非来館型電子図書館の構築”でした。図書館まで来なくとも、ホームページを通して探し物ができる、電子ジャー

USHIZAWA Noriko

東邦大学医学メディアセンター

ナルが利用できる、という状態を実現していません。

また、トップページは利用者の立場に立った構成を心がけています。レイアウトは Yahoo! Japan や HighWire Press を参考にしました。左下の方に目次を設けてありますが、良く使われる項目を上の方にピックアップしてすぐにアクセスできるようにしています。右の方にはデータベースを表組みにして“アクセス”と“説明と使い方”それぞれ一回のクリックで済むようにしてあります。

トップページを含め、医学メディアセンター全体では約 120 のページがあります。

#### IV. ホームページの内容

##### 1. 図書館システム関係

当センターでは図書館システムとして LINUS/NC を導入し資料管理、閲覧管理、相互貸借等の業務を行っています。このシステムの OPAC (蔵書検索システム) と WEB サービスをホームページ上で提供しています。WEB サービスはセンター外から複写を依頼したり資料を予約したりすることができます。

##### 2. 定番データベース・電子ジャーナルのリンク集

PubMed や医中誌 WEB、Cochrane Library など定番データベースをホームページに配しています。PubMed は全世界に公開されていますのでことさらにメディアセンターのページを通る必要はありません。それでも、何をすれば良いかわからない人のためにセンターのページへ来ればツールがそろっている、また使い方の説明も合わせ見ることができるようにしてあります。

また、全文を利用できる電子ジャーナルのリストも作成し、提供元ごとの使い方の説明も入れています。

##### 3. 有用なツールのリンク

(1)「NACSIS Webcat」や(2)「Online Journals」(北海道大学附属図書館が作成して

いる電子ジャーナルのリンク集)、(3)「Instructions to Authors in the Health Sciences」(Medical College of Ohio の Raymon H. Mulford Library による投稿規定集)など、業務にはもちろん、利用者にとって便利なツールを簡単な説明とともに掲載しています。

#### 4. 独自の内容

来館しなくても情報が利用できるよう、各種サービスなどの使い方・説明を入れています。

- ・センターの利用案内
- ・MEDLINE(PubMed)
- ・Cochrane Library
- ・医中誌 WEB
- ・電子ジャーナルの使い方
- ・診療ガイドライン (次章)

#### V. 診療ガイドラインのページ<sup>1)</sup>

主に国内のガイドラインを収録しています。ガイドライン名、作成機関、出版社あるいは収録雑誌を一覧にしています。筆者の相棒である平輪が作成しています (図 2)。

E BM (エビデンスに基づく医療) の考え方が取り入れられるようになって、ガイドラインが次々と発表されていますし、需要も多くなってきました。

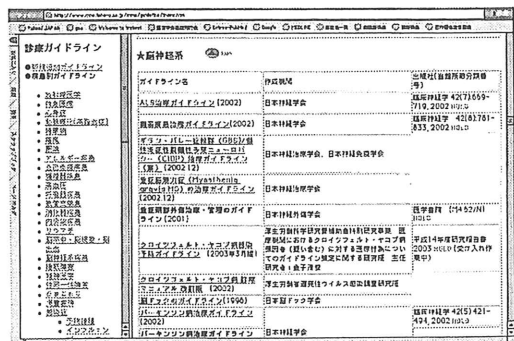


図2 診療ガイドラインのページ

<http://www.mmc.toho-u.ac.jp/mmc/guideline/>

ガイドラインがウェブ上で公開されているものはリンクを張っていますので、クリックひと

つで閲覧することができます。単行書として出版されているものもありますが、雑誌に掲載されたもの、中には市販されていない報告書など、一般には入手困難なものも少なくありません。いずれにしても求めている人からすれば貴重な情報源だろうと思います。

これらのガイドラインを、平輪が精力的に集めています。何かの記事中でガイドラインのことを読んだ時、それがどういう形で出されているか書かれていないことも多いようですが、探し出して掲載しています。雑誌の受入担当者もガイドラインが掲載されているのを見つけると持ってきてくれます。また、厚生労働省の研究班に当センター員が関わっているために手に入れることができる報告書などもあります。

このような仕事ができるのは医学図書館員ならではだと思いますし、使っていただけるのは司書冥利につきると思います。

## VI. ホームページと連動した業務

ホームページ作成に関連した業務としては、“ブックマークシリーズ”と教室・医局での出張説明会があります。

“ブックマークシリーズ”は不定期刊行のマニュアルです。新しいサービスを始めたときにその使い方のページを作り、さらにブックマークシリーズ用に編集して印刷・配布するのが一番多いパターンです。

教室・医局での出張説明会は今年3年目になります。新入医局員が入る頃に、希望のあった教室・医局に出向いて各種サービスの説明をします。それぞれの部署に合わせて、例えば心療内科であれば心理学関係のデータベースを入れる、薬剤部であれば化学関係のデータベースを紹介するというようにメニューを決めています。またその際には各所でどのようにサービスが使われているかこちらから尋ねたり、どんな環境で使っているのか（各人が自由に使えるかなど）、ブラウザの「お気に入り（ブックマーク）」に医学メディアセンターは入っているか(1)、全

体の雰囲気などを見させていただいています。

本年5月、病院図書館研究会の研修会の折、「顔の見えない利用者への呼びかけはどうしたらいいか」というフロアからの質問に、三輪眞木子さんが「“顔の見える関係”を作った上で遠隔利用をしてもらおう努力が必要ではないか。

“顔の見える関係”は各現場で考えて。」と答えておられました。これを聞いたときに、出張説明会は“顔の見える関係”作りになっていたのだとうれしく思いました。

## VII. ホームページ用ファイルの作成<sup>2)</sup>

当センターのホームページはLINUS分を除きすべて自力で作成し、ファイル転送も行っています。自前のメリットはなんといってもお金がかからない（エディターは購入）、構成が自由にできる、随時更新が可能なことです。

また、ホームページ作成を学習するメリットとしては、よそのページがいいな、と思ったら、それを参考にすることができることです。具体的にはまねしたいページを開いたら、ブラウザの「表示」からInternet Explorerでは「ソース」を、Netscapeでは「ページソース」を選びます。するとそのページを表現しているhtmlファイルが表示されますので、それを参考にします。

## VIII. 今後の課題

今後の課題としては、レファレンスページの充実を考えています。たとえばFrequently Asked Question集の作成など。また、現在も簡単な質問受付を組み込んでいますが、あまり有効に機能していないので、工夫したいところです。さらに、もう少し積極的な情報発信をしていきたいと思います。すでに他館で実行されているところもありますが、メールでのお知らせなどを定期的に出すことを模索中です。

## IX. 協同作業

東邦大学には医学、習志野の2つのメディア

センターがあります。以前は同じ大学でありながら全く別の図書館として電子ジャーナルや各種サービスを運用していました。ですから習志野で契約していても医学部では使えない電子ジャーナルやサービスがありました。現在では基本的に電子ジャーナルやサービスは一括して契約を結び、全キャンパスに提供しています。

これに伴い、以前は医学部・習志野それぞれ別にあった電子ジャーナルのページも統一しました(図3)。

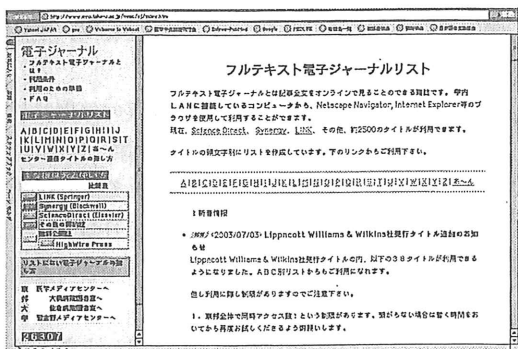


図3. 電子ジャーナルのページ

<http://www.mnc.toho-u.ac.jp/mnc/ej/>

右フレームの最新情報やリストは情報サービ

ス部門が作成し、随時更新していますし、左フレームの各種説明は調査研究支援部門が運用しています。

このように、医学、習志野の協同作業、また部門間の協同作業をしています。

このような協同作業は今のところ学内だけで、日本医学図書館協会の電子ジャーナルコンソーシアムも実現していますし、今後各種サービスのコンソーシアム、またレファレンス協同ページ<sup>3)</sup>などが組織の枠を越えて実現していくのではないかと考えます。

そのような仕事を皆様と将来一緒にできればうれしく思います。

### 参考文献

- 1) 平輪麻里子. 診療ガイドライン. 医学図書館. 2002;49(4):340-8.
- 2) 実践! 図書館・情報部門のホームページ作成. 情報科学技術協会編. 東京. 2001.
- 3) 尾城孝一. 「電子図書館サービスの新たな可能性」第12回大図研オープンカレッジ. 2003年6月.[引用 2003.8.26]  
[http://yicin.komachi.gr.jp/~dtk/kenkyu/resource/DOC12\\_ojiro.pdf](http://yicin.komachi.gr.jp/~dtk/kenkyu/resource/DOC12_ojiro.pdf)